



デジタルアーカイブ推進コンソーシアム

DAPCON

2021年度活動報告書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

デジタルアーカイブ推進コンソーシアム

目次

1.	本コンソーシアムの概要	2
1.1.	会長からのご挨拶	2
1.2.	設立の趣旨	2
1.3.	活動概要	3
1.4.	組織構成	4
1.4.1.	役員	4
1.4.2.	幹事会員	4
1.4.3.	一般会員	4
1.4.4.	情報会員	4
1.4.5.	事務局	4
2.	年間活動報告	5
2.1.	「2021 デジタルアーカイブ産業賞」の開催	5
2.1.1.	各部門賞の概要	6
2.1.2.	選考委員	6
2.1.3.	作業部会員	6
2.1.4.	「2021 デジタルアーカイブ産業賞」受賞者一覧	7
2.2.	デジタルアーカイブ分野の人材育成	11
2.2.1.	デジタルアーカイブ研修連続セミナー	11
2.3.	会員を対象としたアンケートの実施	11
2.4.	デジタルアーカイブ推進コンソーシアム会員懇談会	12
2.5.	幹事会員会・総会・幹事会員ミーティング	12
2.5.1.	幹事会	12
2.5.2.	総会	15
2.5.3.	幹事会員ミーティング	17
2.6.	パブリックコメントの提出	17
2.7.	年次会計報告	18
3.	来年度活動予定	19

1. 本コンソーシアムの概要

1.1. 会長からのご挨拶

デジタルアーカイブ推進コンソーシアム(略称DAPCON)は2017年4月に発足した。その背景を考えると、日本は技術立国として文化財のデジタル化技術の開発、データベース構築を世界に先駆けて行なってきたが、文化立国としての長期的視点が十分でなく、その取り組みは散発的で継続性に乏しいものであった。その結果、日本の知識基盤と産業基盤を支えるはずのデジタルアーカイブについても、個別の取り組みが多く、継続性に欠け連携が取れず世界に後れを取るようになった。

デジタルアーカイブというと博物館や図書館の収蔵庫に大事にしまわれた文化財の保存と公開という狭い分野の印象を持たれがちだが、本来は、それぞれの時代の最新の技術を用いて、最新の情報を記録し、次世代へ伝えることで、ビジネスや外交交渉を有利に進め、教育水準を高め、コミュニティの維持発展・文化アイデンティティの醸成を助けるものであり、未来への基盤づくりなのである。

産官学民一体となって日本のデジタルアーカイブ化を進める中で、本コンソーシアムは、その取り組みの継続性を担保するために必要不可欠な産業セクターの発展を生み出す力となり、様々な業態の関連企業が知恵を出し合い、デジタルアーカイブ産業としての底上げを図る場となるものである。そして、ようやく国全体としてのデジタルアーカイブへの取り組みが始まりつつある国会や政府、学界、様々なコンテンツホルダーとの緊密な連携の場となることを目指したい。

関連各界のご理解とご協力をお願い申し上げます。



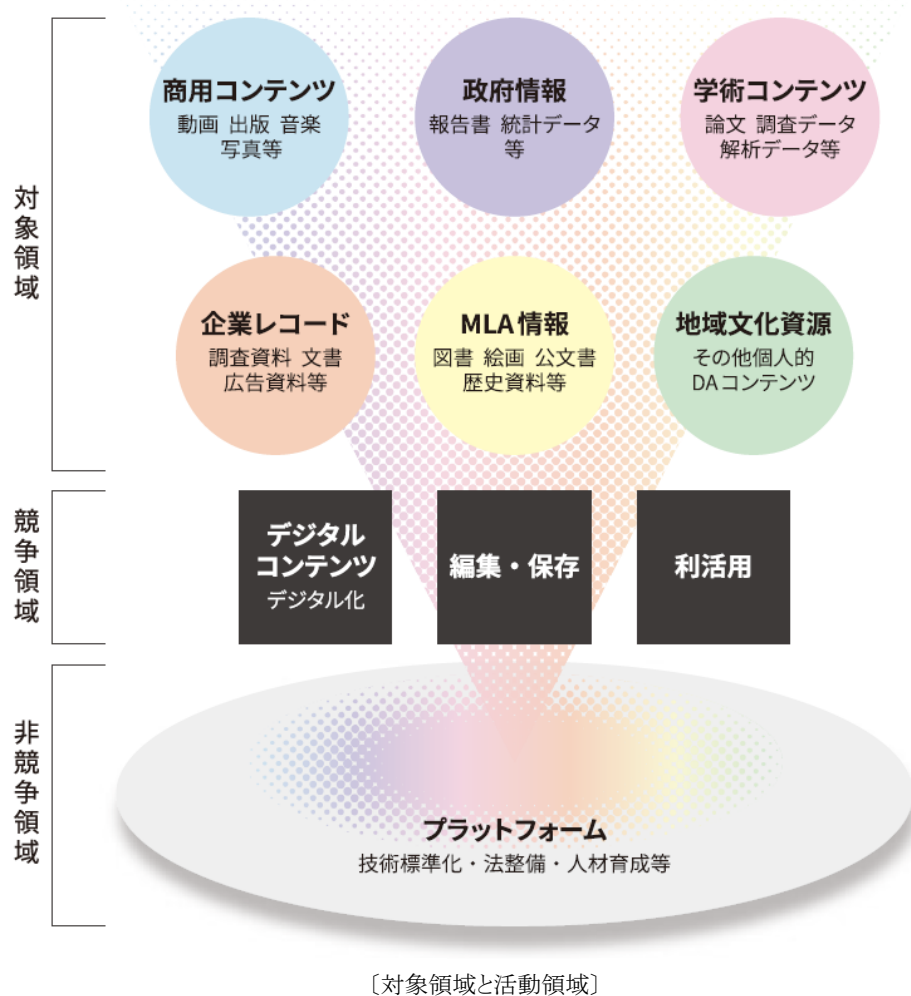
〔青柳正規会長〕

1.2. 設立の趣旨

我が国における産業振興、学術分野の発展、教育の向上、日常生活の充実等、国民生活のあらゆる場面において、デジタルコンテンツの開発・活用は今後の発展のためには不可欠の要因であり、それを支えるインフラとしてのデジタルアーカイブの整備・活用は我が国にとって喫緊の課題となっている。しかし、欧米は言うに及ばず、中国、韓国などのアジア主要国と比べても、我が国におけるデジタルアーカイブ整備は緒についたばかりであり、その促進に向けた急速な取り組みが必要となっている。

こうした状況を受けて、デジタルコンテンツの流通・利用とそれを支えるデジタルアーカイブの構築に関わる企業が連携し、その促進のため共通の課題解決に向けて取り組むためにデジタルアーカイブ推進コンソーシアム(DAPCON)が2017年4月に発足した。

1.3. 活動概要



上図、非競争領域整備のため、以下の4点についての活動を推進する。

1 日本の電子コンテンツ流通・利用促進のためのプラットフォーム形成

デジタルアーカイブ産業の範囲:

電子コンテンツの生産者から消費者までの流通チャネル形成、電子コンテンツの蓄積、編集加工・キュレーションなどの付加価値創造、流通調整、利用促進等、電子コンテンツ産業のプラットフォーム機能を支える産業群

- 2 関連法令整備、規制緩和、税制等への対応、個別のビジネスモデル構築の基準となる産業スキーム形成、標準化促進、人材確保等業界としての共通利益を追求
- 3 関連する大学、学会、府省、国の情報基盤整備機関、関連業界等との連携
- 4 海外展開のための基盤整備

1.4. 組織構成

1.4.1. 役員

会長	青柳 正規(多摩美術大学理事長)
副会長	宮本 聖二(ヤフー株式会社/立教大学教授)
顧問	中山 信弘(東京大学名誉教授)
顧問	原島 博(東京大学名誉教授)
顧問	御厨 貴(東京大学名誉教授)
事務局長	長丁 光則(東京大学特任教授)(~2021年8月31日) 緒方 靖弘(寺田倉庫株式会社執行役員)(2021年9月1日~)
監事	丸善雄松堂株式会社
幹事	以下幹事会員(5社)

1.4.2. 幹事会員

(50音順)

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
大日本印刷株式会社
寺田倉庫株式会社
凸版印刷株式会社
ヤフー株式会社

1.4.3. 一般会員

(50音順)

株式会社ヴィアックス
TRC-ADEAC株式会社
株式会社野村総合研究所
株式会社ブックスキャン
丸善雄松堂株式会社

1.4.4. 情報会員

(50音順)

株式会社IMAGICAエンタテインメントメディアサービス
ポニー文化研究所

1.4.5. 事務局

東京大学大学院情報学環DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座(~2021年10月)

2. 年間活動報告

2.1. 「2021 デジタルアーカイブ産業賞」の開催

DAPCONでは、デジタルアーカイブに関して産業振興に寄与した個人や団体を称揚することを目的に、2019年より毎年、デジタルアーカイブ産業賞を開催している。「2021 デジタルアーカイブ産業賞」においては、ビジネス賞1件、技術賞3件、貢献賞1件を選出した。なお、功労賞については、受賞に該当する候補がなかった。また、審査員の総意のもと、奨励賞という名称で3件を選出した。

受賞式については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、例年とは形式を変更し、2021年8月4日にオンライン(Zoom)で開催した。また、「2021 デジタルアーカイブ産業賞 受賞テーマ発表会」として、2021年9月28日にオンライン(Zoom)での受賞者発表と、受賞者によるプレゼンテーション、高野 明彦氏(国立情報学研究所・教授)による講評を行った。

「2021 デジタルアーカイブ産業賞 表彰式」式次第

- 1 選考結果発表(青柳 正規会長)
- 2 表彰(青柳 正規会長)
- 3 受賞者よりご挨拶(1分×8名)
- 4 閉会のご挨拶(長丁 光則事務局長)

「2021 デジタルアーカイブ産業賞 受賞テーマ発表会」式次第

- 1 開会宣言:緒方 靖弘事務局長(司会)
- 2 受賞者発表:緒方 靖弘事務局長
- 3 テーマ発表(受賞者プレゼンテーション)1テーマ計10分(発表8分、質疑応答2分)×8テーマ
- 4 講評:高野 明彦氏(国立情報学研究所教授)
- 5 閉式宣言:緒方 靖弘事務局長

「2021 デジタルアーカイブ産業賞 受賞テーマ発表会」開催概要

主催:デジタルアーカイブ推進コンソーシアム

後援:デジタルアーカイブ学会

開催日時: 2021年9月28日(火) 13:00~14:45(Zoomでのオンライン開催)

視聴対象:一般公開

参加費用: 無料



〔参加者集合写真〕

2.1.1. 各部門賞の概要

①技術賞

前年度に発表または実施したデジタルアーカイブ産業に資する革新的な技術・手法・サービス・機材・システムを対象とする。

②ビジネス賞

過去5年以内を対象としてデジタルアーカイブ産業の新しい分野・ビジネスモデルを開拓し、普及・活用等に優れた貢献をした個人・企業・機関・団体を対象とする。

③貢献賞

期間を問わず、デジタルアーカイブ産業の発展に大きく寄与した個人または団体を対象とする。

2.1.2. 選考委員

(氏名50音順)

青柳 正規:選考委員長(デジタルアーカイブ推進コンソーシアム会長/多摩美術大学理事長)

田淵 エルガ(内閣府知的財産戦略推進事務局参事官)

高野 明彦(国立情報学研究所教授)

原島 博(東京大学名誉教授)

吉見 俊哉(デジタルアーカイブ学会会長/東京大学大学院情報学環教授)

2.1.3. 作業部会員

(氏名50音順)

緒方 靖弘(寺田倉庫株式会社)

岡本 真(アカデミック・リソース・ガイド株式会社)

加茂 竜一(凸版印刷株式会社)
 神崎 正英(ゼノン・リミテッド・パートナーズ代表)
 小林 慎太郎(株式会社野村総合研究所)
 時実 象一(東京大学高等客員研究員)
 長丁 光則(作業部会長(デジタルアーカイブ推進コンソーシアム事務局長))
 早川 正樹(株式会社NTTデータ)
 宮本 聖二(立教大学特任教授/ヤフー株式会社)
 脇 昌弘(ネットアップ合同会社)

2.1.4. 「2021 デジタルアーカイブ産業賞」受賞者一覧

賞	受賞者	選定理由
ビジネス賞	「ASEAN統合デジタルアーカイブ」 株式会社NTTデータ	ASEAN事務局、ASEAN10カ国の政府、各国の文化機関(図書館・博物館・美術館)、日本政府及びNTTデータが協力し、ASEAN各国の文化遺産を一元的に保全・公開し、地域全体の文化の相互理解や発信を推進する場を構築し、IT技術を活用することで日・ASEANの『文化』における交流・貢献に寄与した。 また、アーカイブの対象には有形文化財の2D・3Dデータから、無形文化財の音声・動画までが含まれており、3Dコンテンツに関しては新たにアプリをインストールすることなく、ブラウザ上で閲覧可能とすることで、デバイスを問わずコンテンツ閲覧可能な環境を提供している。 今後の展開としては、ASEAN全域の各国の有形・無形文化財のデジタル化に加え、各国内でデジタル化を可能とし、持続可能なノウハウの提供も含めた人材育成も視野に入れたプロジェクトが想定されている。 今回のACHDA (ASEAN Cultural Heritage Digital Archive)プロジェクトにより、国や機関の枠を越えた大きなスキームのデジタルアーカイブが成立し、BtoGビジネスの成功例として、ASEANの発展に寄与していることの功績を推薦の理由とする。
貢献賞	「Yahoo!ニュース 未来に伝える戦争の記憶」 ヤフー株式会社	ネットポータルとして日々起きるニュース情報配信に加えて、ストックとしてのアーカイブ機能を持たせたもの。巨大プラットフォームとしての責任や公共性とは何かへの一つの解でもある。また、様々なメディアのアグリゲーターの特色を生かして、地方メディア(新聞、テレビ)との

		<p>連携によるオープンメディアによるデジタルアーカイブを実現して広くユーザーに届く仕組みを持たせた点がユニークである。</p>
技術賞	<p>「デジタルアーカイブに特化した高精度スキャナ機器開発と公開活用」 アイメジャー株式会社</p>	<p>2004年、業界で初めて大型作品をテレセントリックレンズという特殊レンズを使用した正射投影法による1万対1の寸法精度のフルカラーレスキャンニングを可能とするスキャナ機器を開発。このスキャナは、刀剣や能面などの立体物や凸凹のある深い焦点深度が必要な対象であってもレイヤースキャン(フォーカスブラケットスキャン)を行い深度合成し簡単に歪の無いパンフォーカス画像が取得できる。</p> <p>近年、この技術を発展させてデリケートな写真乾板の高精度スキャンニングを可能とする機器を開発。2016年より、これらのスキャナを分解搬送する出張スキャンニング業務を開始し多くの実績を重ねている。2021年より(株)フोटロン(旧イマジカデジタルスケープ)の高精細ビューワを活用しコンテンツ制作を開始。デジタル化したデータから高精度に再現できる点で貴重な技術である。</p>
	<p>「3DDB Viewer」 産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター 地理情報科学研究チーム</p>	<p>これまで文化財や建造物などの立体物のデジタルアーカイブを構築するにあたって、外観の写真や図面などの「写し」のデジタル化、二次元データがほとんどだった。</p> <p>近年、世界的に立体物を三次元データとしてデジタル化・記録する例が拡大している。手法もフォーマットも異なる単独のデジタル化・記録が多く、利活用可能なアーカイブに押し上げるためには多種多様な三次元データ(点群/メッシュ/構造物等)を格納し、容易に検索/閲覧できるシステムが求められていた。このWebユーザインタフェース技術は3Dデータの公開方法に新たな可能性を開き、三次元データの一層の普及への緒となるものと言える。</p>
	<p>「BnFxDNP ミュージアムラボ」大日本印刷株式会社</p>	<p>フォトグラメトリ技術ではデータ化が困難とされてきた金属光沢・半透過(宝石など)及び複雑な彫刻が施されたトーラス体の撮影と3D合成に成功。また、フォトグラメトリ技術を空間デジタルアーカイブにも応用し高精細な天井・壁画のデジタル化を行っている。</p> <p>鑑賞システムではVR研究で知られるリダイレクテット</p>

		<p>ワーク現象を活用し、小さな展示施設だけで大きな仮想空間の中を実際に歩いて移動、階段を上り天井画に近づく体験を実現しており、新しい展示体験を提案している。</p>
奨励賞	<p>「デジタルアーカイブコンテンツ管理プラットフォームの提供とデジタルコンテンツ利活用の推進」株式会社メディアプラス</p>	<p>デジタルアーカイブコンテンツ管理プラットフォーム提供と利活用の推進を幅広く行っている。長期保存と連携したアーカイブシステム「Cerca(セリカ)」、アーカイブしたデータをパブリックに共有できるクラウドサービス「Spinner(スピナー)」を用いて、幅広くアーカイブデータの活用を推進。</p> <p>事例 Web角座(松竹芸能)、吹田まつり(吹田まつ務局)、Castory(イージェット-保育園サポート)など。</p> <p>また、VTR等ビデオテープに保管された映像資産のファイル変換を促進。国内に残された貴重なアーカイブ資産のデジタル化支援・啓発活動を行っている。</p>
	<p>「EPAD『緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業』」 EPAD実行委員会</p>	<p>対応しなければ散逸する危機にあった舞台作品収録映像を、収集権利対価の支払いなどを通じて、多様な分野(演劇、舞踊、伝統芸能など)にわたり全国から収集した。その収集作品群は、早稲田大学演劇博物館で収蔵することで安全に保管でき、館内閲覧に供することができる。またEPAD事業全体、およびJDTA(Japan Digital Theatre Archives)では、戯曲デジタルアーカイブといった収集作品の検索、閲覧ができるポータルサイトを構築し、舞台芸術界のデジタルアーカイブに貢献した。</p> <p>これらのデジタルアーカイブは同一作品など共通する要素が含まれるものがあるため、各アーカイブが連携することで、それぞれの資料を一層活かすことができ、EPAD全体としての価値も高まるはずである。EPAD事業をきっかけに構築された各アーカイブにおける相互連携を強化し、より充実した成果が生み出されることを期待し、奨励賞を贈りたい。</p>
	<p>「学術資料のデジタルアーカイブ事業(調査・整理・活用・発信)」 合同会社AMANE</p>	<p>合同会社AMANEは、「学術資料の調査・整理」と「学術資料の活用と発信」を2本柱とする企業で、北陸を中心に活動。学術コンテンツのデジタル化と利活用をアカデミアとビジネスの2つの点から実践してきている点をまず評価したい。</p>

		<p>そしてコロナ禍においては、苦境に立たされた図書館や博物館施設の文化活動を後押しする「キテプロジェクト」を立ち上げている。このプロジェクトではデザイナーや司書、学芸員らと協業して、ソーシャルディスタンスを促すデザインの実装に取り組み、ここにデジタルアーカイブを積極的に活用している。こういった社会貢献的な事業への取り組みも評価したい。</p> <p>原資料の取り扱いから評価、保存、デジタル化、デジタル化データの活用まで6次産業的な展開を見せており、非常に貢献度が高いと考える。特にこの1年は社会貢献として東北大学や大阪市立図書館での取り組みを展開しており表彰に値する。</p>
--	--	---

2.2. デジタルアーカイブ分野の人材育成

2.2.1. デジタルアーカイブ研修連続セミナー

DAPCON加盟社におけるデジタルアーカイブ事業の中核を担う人材の育成を目的に、デジタルアーカイブ研修連続セミナーを開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、例年とは時期と形式を変更し、2021年8～9月にオンラインで実施し、5社より計6名が参加した。

《参加企業(全6社)》(50音順)

株式会社NTTデータ

大日本印刷株式会社

TRC-ADEAC株式会社

株式会社野村総合研究所

丸善雄松堂株式会社

回	実施日	セミナー内容	講師
1	2021/8/17	デジタルアーカイブに関わる最新 動向:技術	時実象一氏(東京大学大学院情報学環高等 客員研究員)
2	2021/8/31	講義:デジタルアーカイブに関わる 最新動向:技術編	時実象一氏(東京大学大学院情報学環高等 客員研究員)
3	2021/9/14	講義:デジタルアーカイブに関わる 最新動向:法律編	福井健策氏(骨董通り法律事務所弁護士) 生貝直人氏(東洋大学准教授・東京大学情報 学環客員准教授)
4	2021/9/28	デジタルアーカイブに関わる最新 動向:実務編	山川道子氏(株式会社プロダクション・アイ ジー)

[セミナープログラム]

2.3. 会員を対象としたアンケートの実施

アンケート実施概要

DAPCON発足から5年が経過し、また、新型コロナウイルスの流行で事業環境や業務の有り様が激変した現状で、今後のDAPCONの方向性や活動の骨子を再構築し、今後の参考とすることを目的に、会員から広く意見、要望を集めるためのアンケートを実施することとした。

実施期間:2021年9月14～18日

対象:幹事会員、一般会員(幹事会の日程調整欄を除き、同一の内容で実施)

目的:今後の更なる活発な活動とコンソーシアム内外の連携に向けて、DAPCONの方向性や活動の骨子を定めるための参考として実施。

方法:ウェブフォームでのアンケート

回答数:幹事会員7件、一般会員4件(所属される会社と異なるフォームから回答の場合は、本来の属性に分類)

アンケートは全対象社から回答を得たわけではなく、一社から複数名が回答した場合もあったが、大きな意見の傾向(過半数か否かなど)をつかむ参考として、また具体的な提案などを含む意見も多くあったことから、幹事会で結果の概要とまとめを共有し、議論、検討の方向性の整理を行うために活用することとした。

2.4. デジタルアーカイブ推進コンソーシアム会員懇談会

会員間のネットワーク構築と、幹事会員ミーティングで議論を重ねた今後のDAPCONの方向性案について共有し、意見を集めるべく、2022年3月18日に幹事会員と一般会員を対象とした会員懇談会を開催した。

■出席者(敬称略)

NTTデータ、大日本印刷、寺田倉庫、凸版印刷、ヤフー、TRC-ADEAC、野村総合研究所、事務局

■実施内容

開会ご挨拶(DAPCON事務局長 緒方 靖弘)

基調講演「著作権の最新動向」(骨董通り法律事務所代表パートナー 福井 健策弁護士)

DAPCON今年度活動報告と今後の方向性について(DAPCON事務局長 緒方 靖弘)

自社の最近の取組とDAPCONに期待すること(一般会員各社 各5分程度)

■報告事項

- 1 2021年9月以降の活動の流れ
- 2 2022年度の主な活動予定
- 3 来年度に向けて

2.5. 幹事委員会・総会・幹事会員ミーティング

2.5.1. 幹事会

2021年5月7日、7月29日、10月5日の計3回、実施した。以下に各回の要旨を記載する。

(1) 第1回幹事会(2021年5月7日:オンライン)

■出席者(敬称略)

NTTデータ、大日本印刷、寺田倉庫、凸版印刷、富士通、ヤフー、事務局

■配布資料

資料1 2020年度活動総括

資料2 2020年度収支報告書

資料3 2021年度活動計画(案)

資料4 モデル事業開発(京都市・高山市)

資料5 2021年度予算執行計画書(案)

資料6 「デジタルアーカイブ産業賞」選考委員交替について

資料7 DAPCON活動方向性について

■報告事項

1 2020年度活動総括

資料1をもとに事務局長より報告された。

・制度設計に向けた取り組み

デジタル庁設置に向けた緊急提言

・モデル事業開発

パイロット事業:自治体の文化資源デジタルアーカイブ支援サイト、テキストデータ再活用推進検討会公開シンポジウム、データ活用持続可能性検討委員会(富士通、富士フイルム共同)

・セミナー・イベント等

技術セミナー2回(ナレッジグラフの概要、VFとカタログが創るデータ利活用の世界

公開シンポジウム「Out of commerce コンテンツをビジネス活用する—公共利用を基盤として」

デジタルアーカイブ産業賞授賞式開催

・人材育成

デジタルアーカイブ研修連続セミナー

・学術連携

国際ファッション専門職大学でのデジタルアーカイブ講義

・広報

ニューズレター発行、年次活動報告書発行、ホームページリニューアル

2 会計報告

資料2をもとに事務局長より報告された。

3 「デジタルアーカイブ産業賞」選考委員交替について

資料6をもとに事務局長より報告された。

4 幹事会員NTTデータの担当交替

5 2021年度活動計画全容

資料3をもとに事務局長より説明された。

・制度設計に向けた取り組み

①デジタル庁施策

②中央官庁等とのコミュニケーション

③権利処理団体設立に向けた取り組み

・モデル事業開発

・セミナー・イベント等

①デジタルアーカイブ産業賞の表彰

②技術委員会開催セミナー

③国際ファッション専門職大学でのDAPCON企業による授業開講(全15回)

・人材育成

デジタルアーカイブ研修連続セミナー

・学術連携

デジタルアーカイブ学会・デジタルアーカイブ研究機関連絡会との連携、大学・研究機関連携

・広報

ニューズレター、年次活動報告書、ホームページ更新

6 2021年度予算執行計画書(案)

資料5をもとに事務局より説明された。

(2) 第2回幹事会(2021年7月29日:オンライン)

■出席者(敬称略)

NTTデータ、大日本印刷、寺田倉庫、凸版印刷、ヤフー、事務局

■配布資料

資料1 2021年度DAPCON研修連続セミナープログラム

資料2 2021 デジタルアーカイブ産業賞受賞内容

■報告事項

1 研修連続セミナー開催

新型コロナウイルス感染拡大のため、全面オンラインでの開催であること、全4回のプログラム内容が事務局より報告された。

2 総会開催(産業賞表彰式含む)

8月4日に総会およびデジタルアーカイブ産業賞表彰式を開催する旨が事務局長より報告された。また選考委員会およびその下部組織である作業部会にて選考された結果が資料2にて事務局より報告された。

3 DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座10月末終了

事務局が設置されているDNP学術電子コンテンツ研究寄付講座が本年10月30日に終了することが事務局長より報告された。

■検討事項

1 次期事務局長の選出

DNP学術電子コンテンツ研究寄付講座の終了に伴い、次期事務局長の選出方法について協議された。現事務局長より自薦、他薦による互選方式が提案され候補者を求めたが、自薦、他薦ともになかった。そこで現事務局長より寺田倉庫の緒方靖弘氏の推薦があり、出席者全員の賛成により決定した。9月1日より新事務局長が着任することとなった。

(3) 第3回幹事会(2021年10月5日:オンライン)

■出席者(敬称略)

NTTデータ、大日本印刷、寺田倉庫、凸版印刷、ヤフー、事務局

■配布資料

なし

■報告事項

1 先日行ったアンケートの結果の概要、寄せられた意見と、検討の方向性案の共有

■検討事項

1 アンケート結果を参考にしながら、事業の選択(統廃合、新たな企画の立ち上げ)、運営面などを含む、今後の議論、検討に向けた大きな方向性の整理を行うため、幹事会内でご意見をいただくことに加えてフォームを設け、幹事会終了後にご意見を受け付けることとした。

2.5.2. 総会

2021年8月4日に2021年度第1回総会を実施した。議事要旨を以下に記載する。

(1) 第1回総会(2021年8月4日:オンライン)

■出席者(敬称略)

ヴィアックス、NTTデータ、大日本印刷、TRC-ADEAC、寺田倉庫、凸版印刷、野村総合研究所、丸善雄松堂、ヤフー、青柳会長、事務局

■配布資料

- 資料1 2020年度活動総括
- 資料2 2020年度収支報告書
- 資料3 2021年度活動計画
- 資料4 モデル事業開発(京都市・高山市)
- 資料5 2021年度予算執行計画書
- 資料6 2021DAPCON産業賞受賞者一覧

■議事要旨

冒頭に青柳正規会長から会員各位へ挨拶の後、以下の報告を行った。

1 2020年度活動総括および会計報告

事務局長より資料1、2に沿って報告され、異議・質問等はなかった。

2 2021年度活動計画および予算執行計画書(資料3、4、5)

事務局長より資料3、4、5に沿って報告され、異議・質問等はなかった。

3 次期事務局長の選出と事務局運営

事務局が設置されているDNP学術電子コンテンツ研究寄付講座が2021年10月30日に終了することに
伴い幹事会で協議した結果、9月1日より次期事務局長に、寺田倉庫の緒方靖弘氏が就任することが出席者全員に承認された。事務局の運営については、現事務局から10月中に引継ぎを行うこととした。

■2021 DAPCON産業賞表彰式

青柳正規会長による挨拶の後、受賞者全員参加にて表彰式を開催した。本年は、貢献賞1件、技術賞3件、奨励賞3件を選出した。受賞者による受賞テーマ発表会を9月に開催することが事務局長より報告された。

貢献賞

- ・「Yahoo!ニュース 未来に伝える戦争の記憶」ヤフー株式会社

技術賞

- ・「デジタルアーカイブに特化した高精度スキャナ機器開発と公開活用」アイメジャー株式会社
- ・「3DDB Viewer」産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 人工知能研究センター 地理情報科学
学研究チーム
- ・「BnF×DNP ミュージアムラボ」大日本印刷株式会社

奨励賞

- ・「デジタルアーカイブコンテンツ管理プラットフォームの提供とデジタルコンテンツ利活用の推進」株式会社メディアプラス
- ・「EPAD『緊急舞台芸術アーカイブ＋デジタルシアター化支援事業』 EPAD 実行委員会
- ・「学術資料のデジタルアーカイブ事業(調査・整理・活用・発信)」合同会社AMANE

2.5.3. 幹事会員ミーティング

幹事会員間の交流を促進し、今後のDAPCONの方向性を定めるべく、2021年11月9日、12月9日、2022年1月25日、3月4日の計4回、幹事会員が参加するミーティングを行い、議論を重ねた。

2.6. パブリックコメントの提出

文化審議会著作権分科会基本政策小委員会からの「簡素で一元的な権利処理」の在り方に関する意見募集にあたって、DAPCONとして意見をまとめ、提出を行った。

2.7. 年次会計報告

2021年度の収支報告書を掲載する。

		予算	実績	差額・備考
収入	■昨年度繰越金	3,546,286	3,546,286	
	■年会費			
	見込予算	5,400,000		
	幹事(6社×40万円)		2,400,000	
	一般(5社×20万円)		1,000,000	
	情報(2社×3万円)		60,000	
①	収入合計	8,946,286	7,006,286	△ 1,940,000
支出	■事務局運営費			
	雑費(コピー用紙など)	100,000	76,369	
	資料購入費	100,000	0	
	交通費・出張費	100,000	0	
	役員講演料	100,000	65,000	
	総会運営費	200,000	0	
	(小計1)	600,000	141,369	458,631
	■広報普及費			
	取材費(講演会等、4回分)	50,000	0	
	ニューズレターNo.17:編集費、印刷費	300,000	219,175	
	ニューズレターNo.18:編集費、印刷費	300,000	219,175	
	ニューズレターNo.19:編集費、印刷費	300,000	219,175	
	年次活動報告書作成費	200,000	259,930	
	ホームページ運営費	200,000	0	
	パンフレット:改訂費、印刷費	50,000	692,257	
	会員配布用書籍購入費	300,000	247,500	
	(小計2)	1,700,000	1,164,955	535,045
	■委員会等運営費			
	委員交通費	100,000	0	
	委員長謝礼金	200,000	0	
	外部有識者謝金	500,000	0	
	(小計3)	800,000	0	800,000
	■研修・交流事業費			
	会場費	300,000	0	
	謝礼金・講師料(講師交通費含)	500,000	644,000	
	セミナー合宿経費	450,000	0	
	交流事業費	200,000	126,720	
	(小計4)	1,450,000	770,720	679,280
	■協賛金			
	協賛金等	500,000	300,000	
	(小計5)	500,000	300,000	200,000
	■パイロット事業運営費	2,500,000	0	
	(小計6)	2,500,000	0	2,500,000
	■予備費	180,929	0	
	(小計7)	180,929	0	180,929
②	支出合計	7,730,929	2,377,044	5,353,885
①-②	次年度繰越金	0	4,629,242	4,629,242

3. 来年度活動予定

(1)活動

- ①参加企業同士の交流、情報交換の促進
- ②新たなコンソーシアムのコンセプト、活動内容の構築
- ③社会への発信の強化(一般向けの活動、政策提言等)

(2)セミナー・イベント等

- ①デジタルアーカイブ産業賞表彰式、受賞者発表会の開催
- ②時勢や参加企業のニーズを捉えたテーマでの参加企業向けセミナーの開催

(3)広報・普及

- ①ニュースレターの発行(年2回)
- ②ホームページの更新
- ③年次活動報告書の発行
- ④その他、発信機能の強化